

# 北朝鮮の社会福祉デリバリーシステムに関する研究

—食糧供給制を中心に—

韓国交通大学 ミン・キチュ

キーワード：北朝鮮、社会福祉、デリバリーシステム、食糧供給制

### 1. 研究目的

本研究の目的は北朝鮮の食糧供給制を中心に北朝鮮社会福祉デリバリーシステムの実態を把握し改善方案を導き出すことである。具体的には金日成時代（～1990年以前）、金正日時代（1990年～2010年）、金正恩時代（2010年以後～現在）に分けて時期別食糧供給制の施行可否を把握する。そして食糧供給制において部門別（軍需工業、貿易、炭鉱、軍隊、安全保衛部など情報機関、功労者、協働農場）及び地域別（平壤とその他地域）に差別があるかどうかを把握する。これと共に食糧供給制の具体的なデリバリーシステムの経路を説明する。最終的には北朝鮮食糧供給制の特徴を総合的に整理し改善方案を導き出す。

### 2. 研究の視点及び方法

本研究の視点は北朝鮮の代表的な社会保障制度の中の一つである食糧供給制が国家責任から個人責任へ転換する過程であることを前提とする。社会主義国家は本質的に普遍主義的であるし平等な福祉システムを形成するが、1990年代「苦難の行軍」と「7.1経済管理改善措置」以後、福祉から個人責任が拡大されたと本研究では評価する。さらに部門別及び地域別差別が拡大されながら福祉システムでの不平等も拡大されているという視点を取っている。

本研究での研究方法は25名の北朝鮮離脱住民に関するインタビュー形式である。本研究はスノーボールサンプリング（snowball sampling）方法で本研究目的に沿うインタビュー参加者を募集した。北朝鮮の食糧供給制に対する経験がありながら、多様な出身地域と職業を持った北朝鮮離脱住民がインタビューへ参加した。

### 3. 倫理的配慮

最終的に確定され構造化したアンケートを通じて2016年3月24日から5月27日にかけて北朝鮮離脱住民インタビューを行った。また、参加者たちに研究参加、録音、転写に関する同意を事前に求め、録音された内容は研究以外の目的では使用されないことを告知し、同意の下でインタビューが行われた。1,892分の録音時間（平均76分所要）に対して総399ページにわたる録取録を作成した。

### 4. 研究結果

研究結果は次の表の内容で要約される。

区分	内容	
時期別 施行可否	金日成時代 ( ~1990年以前 )	正常的に作動
	金正日時代 ( 1990年 ~ 2010年 )	本格的に中断または非定期的支給
	金正恩時代 ( 2010年以後 ~ )	正常的に回復されてない
差別	階層 差別	- 軍需工業部門, 貿易部門, 炭鉱部門, 1級企業所など計画が作動される部門の労働者に供給 - 軍人, 国家安全保衛部, 社会安全員, 行政機関, 貿易機関など重要機関の従事者, 国家功労者, 荣誉軍人, 協働農場農民は一般労働者より食糧事情が良い
	地域 差別	- 平壤地域は多数にわたる国家重要機関の存在, 多数にわたる忠誠階層, 首都平壤の象徴性などの理由で平壤以外の地域より食糧供給が良い - 貿易が活発な地域と相対的に食糧供給事情が良い
経路	- 労働 (労働者) → 申請 (各单位: 機関, 団体, 企業所) → 食糧供給量決定 (糧政省 (内閣), 糧政局 (道), 糧政課 (市, 郡, 区域) → 市, 郡, 区域拠点食糧供給及び配給票配賦 (糧政事業所) → 洞, 里単位食糧供給 (食糧供給所) → 受領 (労働者)の 6段階 - 糧政省 (中央) → 糧政局 (道) → 糧政課及び傘下糧政事業所(市, 郡, 区域) → 食糧供給所 (洞, 里)への食糧供給デリバリーシステムは体系的に組織されている。	
自体デリバリーシステム部門	- 一般労働者以外の食糧供給デリバリーシステムとしては有給党员, 軍人, 国家安全保衛部職員, 社会安全員 (警察), 教導隊所属軍人, 糧政事業所労働者は自体的に配給所利用 - 協働農場農民たちは協働農場別に管理委員会を通じて分配 - 国家功労者, 革命烈士・爱国烈士・戦死者遺家族ら, 荣誉軍人, 除隊軍人は一般労働者と同一の食糧供給デリバリーシステムを利用	
特徴	周期及び供給日	食糧供給周期は15日で世帯ごと供給日は異なる
	非同居	非同居家族構成員も扶養者として認められ食糧供給保障
	他地域	食糧移動証さえあれば他の地域でも食糧供給が可能
	勤労団体の役割	職業同盟, 民主女性同盟, 農業勤労者同盟は食糧供給デリバリーシステムから政治的介入以外に特定した役割はない。
	緊急デリバリーシステム	最悪の食糧難を経て基本的な食糧供給が不可能になると、緊急福祉の次いで2号倉庫と呼ばれる戦争時に開放される食糧倉庫を開放し供給
	腐敗	配給されることのない海外から支援された食糧が市場 (ジャンマダン) で取引されるなどデリバリーシステム過程での腐敗目撃 虚偽の配給票作成を強制される
	住民対応	住民たちは市場 (ジャンマダン) を通じて生計維持 互いに異なる食糧供給日にちを活用し隣との相互扶助を通じて米を借りる力のある権力を借りて生活を維持

#### 4. 考察

時期別に食糧供給施行可否をみると、金日成時代 ( ~1990年以前 ) には正常的に作動したが、金正日時代 ( 1990年 ~ 2010年 ) からは本格的に中断されるか非定期的に支給され、金正恩時代 ( 2010年以後 ~ 現在 ) にも正常的な食糧供給は回復されなかった。特に階層と地域によって食糧供給施行に差別が拡大されている。よって、北朝鮮住民の最低生活保障のために国家責任の食糧供給制を正常化し差別解消が可能なデリバリーシステムに対する信頼構築が要請される。